

GATEWAY

「名」を表す「体」を目指して ~館報改題 1

GATEWAY:私の利用法、紹介します。2

Books Now - 新刊書紹介 6

GATEWAYで選びました! ○○の3冊 (1) 8

LSS活動報告 9

GATEWAY Info 10

vol. 57

「名」を表す「体」を目指して ~館報改題

現・図書館の正式の名はU-メディアセンター・ゲイトウェイといいます。メディアセンターは、開館当時の「電子化の進展に伴う情報環境の激変への対応、知的発信機能の強化」を願って、また、Uは、「大学固有の施設という考え方ではなく、地域社会においても『大学に集い・学ぶ』をテーマとして位置づけ」、UNIVERSITYの頭文字が冠せられました。

では、ゲイトウェイとは? — 前号: 開館20周年記念号の巻頭で、谷岡学長は、入学生も、卒業生も、こぞって通る「登竜門」という意味を命名のゆえんとしたことを、隣接する「蒼天ホール」の宇宙に連なる空の広がり意識した「蒼」の字の由来とともに語られています。

「可能性への入口、世界への入口、未来への入口、そして、もう一人の自分への入口」: GATEWAYという名に込められた理念を、これまでも増して、大学図書館とその活動の随所に表していければと思います。

今号から、本誌もGATEWAYと改題します。引き続きご愛顧いただければ幸いです。

(図書館長 初谷 勇)

GATEWAY：私の利用法、紹介します。

正門に立つと目の前に建物全体が巨大な「門」のように現れるGATEWAY。「登竜門」の名前のとおり「門」となる1階部分を通り抜けてメインストリートへとつながっています。毎日のようにGATEWAYをくぐり教室に向かう皆さんは、GATEWAYをどんなふうに使っていますか？

今回は、図書館委員で経営学科の河辺純先生から3名の学生に、図書館のイメージや普段の利用の仕方から定期試験対策まで、それぞれのGATEWAYの利用法について聞いていただきました。

河辺：今日は図書館の魅力について、3人の学生に話してもらいます。試験対策の話なども聴いてみたいですが、まずはこれまでの学校や地域も含めた生活において、図書館にまつわる体験や思い出があれば教えてください。



河辺 純先生
総合経営学部経営学科 教授

▶図書館の思い出と読書

田熊：小さいころ、地域の図書館のお話の会が好きで、母と姉と一緒に、絵本の朗読をよく聴きに行きました。小学校のときは、図書の授業で借りた『かいけつゾロリ』が好きでした。中学ではあまり図書館には行かなかったのですが、図鑑で変わった海の生物の写真を友達と見て大笑いして楽しかったことが思い出です。高校では図書委員を好きでやっています。

小林：私も小さいころは読みきかせの会が好きでした。中学生になってからは、図書館にある自習室をよく利用しました。特に夏休みの宿題とか。ゲームとかの誘惑が無く、静かな環境の中で集中してできました。

阿部：私は小学校のときに、図書の授業で、学校図書館担当の先生が読みきかせをしてくれて、それを聴くのが結構好きでした。PTAの人たちが土曜日の午前中、図書館を開けてくれて、いつ来てもいいよという状況だったので、毎週のように通っていました。

河辺：毎週行っていたのはすごいね。本好きなんで

すね。どんなジャンルの本が好きですか？好きな雑誌などはありますか？

阿部：2年生の頃の先生が、「目指せ1万ページ」という、本をたくさん読む目標を設定され、私がクラスで一番に達成したぐらい、本を読むのが好きでした。今は恋愛系の本、小説が好きで、月に2～3冊ぐらい。最近だとハリリー・ポッターの映画を見たのがきっかけで、もう1回読んでみたいと思い、原作を読んでいきます。

河辺：本学の語学の授業でも原作を読んだり視聴しようという授業があると聞いたことがあります。字幕とは違う、日本語には訳せない英語もあるみたいで、関心があれば是非受講してみてください。小林さんはどうですか？

小林：私も物語や小説系が好きです。最近はあまり読んでいないのですが、韓国のエッセイ本やアイドルが読んでいた本を調べて読んだりします。前回の選書ツアーにも参加して関連する本を選びました。

田熊：雑誌は全く読まないですが、本は結構読みます。少ないときでも月1～2冊。最近、雨穴（うけつ）さんの『変な家』と『変な絵』が気になって選書ツアーで選びました。ジャンルとしてはホラーですが、会話文が多くて、実例の図版が多くホントに読みやすいですよ。背景や何を意味するのかなどの推理もあってめっちゃおもしろかったです。2階の学生選書のコーナーに、私が書いたポップも置いてくれています。

▶GATEWAYの居心地・お気に入り

河辺：次は、図書館のある施設“GATEWAY”の話を聞きたいなと思います。お気に入りのス



左から：阿部 萌霞さん（経営学科2年、2022年プチエッセイコンテスト図書館長賞受賞）、田熊 紫織さん（公共学科3年、2022年選書ツアー参加）、小林 百合香さん（経済学科3年、図書館学生スタッフ）、河辺 純先生（GATEWAY 6階テラスにて）

ペースはありますか？

田熊：私は、1階の入ってすぐのスペースとか、館内では学生選書コーナーが好きです。あと、4階とかあまり人のいないところが好きです。主に授業の合間に一人で来て過ごしています。

小林：私も2階の選書ツアーと話題の本の棚を見るのが好きです。他の学生が選んだ本にも面白そうな本がいっぱいあるので読んでみたいと思っています。

阿部：2階の窓際のカウンター1人席がすごく好きです。空きコマとか、資格講座の前に行くことが多いです。夕方だといい感じに日ざしが入って暖かかったり、きれいだったりとか。メインストリートが見渡せて、いろんな学生の様子なども見ることができます。ちょっと落ち着きたい時にリラックスできるので、時間によっては満席になっています。

河辺：DVDとか、視聴覚資料を見たことがある人はいますか？

全員：ないです。あることは知っていますが。

田熊：見るとしたらamazonプライムで映画を見ることが多くなっています。

▶あればうれしいサービス？

河辺：最近、まちの本屋さんがどんどん減る中、大型書店の蔦屋とかジュンク堂などでも単に本を並べて販売するだけでなく、いろんな試みやサービスがあればうれしいなというアイデアはありますか？

阿部：図書館に無料か、ちょっと安く飲めるドリンクサーバーなどがあればうれしいなと思います。1階はご飯を食べる人もいるので、1階の入口のところに置くのがいいかなと思います。閑散としてるイメージもあるので、もうちょっとおしゃれな空間であれば。

河辺：数年前から丸いテーブルを置いてご飯を食べられるようにして、学生の居場所ができましたね。小林さんは何か良いアイディアはありますか？

小林：みんなで映画を見られるスペースが図書館にあったらいいなと思います。リアクトでは、狭いスペースにイスを数個置いて、モニターにずっと映画を流してます。それとは別に図書館では、学生が希望する映画の上映会などがあるとうれしいです。

田熊：例えば、月何冊以上借りた人は、抽選で図書カードが当たるとか、貸出などを利用したらポイントをもらえるとか。小学校のとき、毎日朝読があって一定期間に何冊、何ページ以上読めば表彰される、というのがありました。

河辺：さっきの阿部さんの1万ページは表彰か何かありました？

阿部：特になかったです。1万ページいたら「すごいねー」だけで。

河辺：小学生はそれでも頑張れるけど、大学生はどうでしょうね…。ポイントや図書カードが当たるといふアイデアは面白いですね。

▶勉学・学習面での活用

河辺:次は、普段の勉強や学習面でのアドバイス、定期試験前や試験中の利用方法について教えてください。では、3年生の小林さんから。

小林:普段は図書館のパソコンを借りてレポート作成をしたり、定期試験前は早めに来て復習する、ということをやっています。友だち同士で過ごすときはリアクトで、1人で集中したいときは図書館に来ます。蔵書を参考にして課題に取り組んだこともあります。

阿部:私は、友だちと大学で勉強することが少なく、1人で図書館の2階でレジュメをまとめたりレポートを書いたりしています。リアクトだと学生スタッフの先輩とかがいて、どうしても楽しい雰囲気になられて課題が手に付かないので。

田熊:私も試験前に図書館を利用するなら、1人でパソコンを借りて作業します。資格講座の前も、1人で静かに勉強できるので助かります。

河辺:たしかに友達がいたらおしゃべりしてしまいますね。例えばフィールドワークゼミの学生だと、メンバーと協力して作業する場面も多いですよ。パワーポイントの資料を作ったりするときはどこを利用しますか？

田熊:リアクトです。

河辺:使い分けているんですね。図書館には専門的な資料とか文献を探すときにレファレンスサービスというのがあります。そのようなサービスを知っていますか？

田熊:知ってはいるんですが、使ったことはありません。

小林・阿部:知らなかった。

河辺:町の図書館にもあるサービスです。この機会に今日は実際にレファレンスサービスを体験してもらおうと思います。

《実際にレファレンスサービスを体験》

★レファレンスサービス

「レファレンス（資料調査）申込票」に調査相談のテーマを書いて、6階カウンターのレファレンス担当者に対応してもらいました。以下は質疑を重ねて自分に必要な情報



レファレンスサービスを体験する3人

を明確にし、効果的な検索キーワードを見つける支援と、調べ方のアドバイスを受けた例（要旨）です。

Q1：「パワーポイントの本」について

A:ソフトウェアの使い方、なのか、スライド作例か、入門編・中級・上級なのかを考えてみます。検索でたくさんの本がヒットしても、絞り込みや選別のヒントになります。

また、今使用しているソフトのバージョンにあった解説書を選ぶことも重要です。

Q2：「日商簿記2級の本」について

A:概ね資格コーナーに集約されていますが、資格取得を考えているところなら、なるべく最新のものを探ることが大切です。検索条件に出版年を入れてみると効率的です。過去問を参考にすると、ということも頭の隅にいれておくと、勉強しやすいかもしれません。

Q3：「就職の本」について

A:世の中にどんな職業があって、その業界について学んで、自分の進路を決める参考にしたい、ということですね。仕事選びに関するキーワードや業界研究で検索してみましょう。「職業」というキーワードで検索するとたくさん蔵書がヒットしますが、資料を置いている場所が大体固まっているので、この段階で請求記号を控えて直接本棚まで行き、中身を確認しながら選ぶことも効果的です。具体的な就活や選考対策の本も紹介できますので、6階カウンターまでご相談ください。

※レファレンスサービス処理事例（図書館が対応したレファレンス質問と回答）は、質問者を匿名化した上で、レファレンス協同データベースに登録、活用するとともに、公開することがあります。今回は、質問者の承諾を得た上で事例を掲載しています。

河辺：初めてレファレンスを経験した印象はどうですか？

小林：漠然とした相談で、どういう職業につきたいかまだ決めていないのですが、職員の方が色々質問をしてくれて、仕事選びに関する本など、自分が求めている本を探してくれました。おすすめの本を何冊か選んでもらって、請求記号も教えてもらったので、あとで探しにいきます。分かりやすくよかったです。

阿部：パワーポイントの本は、自分で地元の図書館とかで探したことはあったのですが、やはり大学の方が専門的な本がいっぱいありました。また利用したいなと思います。

結構親身になって相談にのってもらえたので、自分の求めている回答も返ってきましたし、よかったなと思いました。

田熊：しっかりした質問内容じゃなくて、ゆるーくても大丈夫なんですね。申込票に「表紙がきれいな本」と「結末がスッパリする本」を紹介してほしいと書いたのですが、真剣に聴いてもらえました。「こういうこと？」と何回も確認してもらうことで、自分の思う本に近付いていけてよかったです。さらに調べていただいて、後日連絡をもらえるという点もうれしいです。職員の方は、話しやすく、また利用してみたいと思いました。

河辺：是非どんどん利用してみてください。

▶ 定期試験の対策

河辺：次は、先輩として新生生に向けて定期試験対策についてアドバイスをお願いします。

小林：予習と復習が大事。授業の前に図書館で勉強して、授業についていけるようにちゃんと準備を。

田熊：授業によっては専門的というか難しいし、すごく速く進む授業もあります。授業の時に資料を見て終わるのではなく、知らない言葉や専門用語など気になったことをメモして、後で調べたり、尋ねるといいと思います。ネットに頼るより図書館で調べたら、確実なことがわかります。

阿部：大学の授業は15週で、1週間前とか2週間前に試験対策をしても間に合わない。日頃からちゃんとノートをまとめて、提出物対策を

きちんとしておくといいと思います。例えば先生によってはレジユメがあっても、試験のときは、自筆ノート以外参照不可なこともあるので、ノート作成も含めて自分なりの勉強方法を確立させることをお勧めします。

河辺：高校までの定期テストと違って、前の日に一夜漬けでは絶対に単位はとれませんよね。先生のお勧めやシラバスに載っている参考図書を利用することはありますか？



シラバスに記載のある参考文献の棚 (2階209棚B面、210棚A面)

小林：あります。図書館のパソコンで調べて見つけました。

阿部：私も小林さんと同じ方法で見つけて利用しています。

田熊：検索するか、2階の参考図書コーナーの棚を探します。

河辺：是非1年生は活用してほしいですね。

▶ 1年生へのメッセージ

河辺：最後に図書館について何か1年生にメッセージをお願いします。

小林：図書館は堅苦しいイメージがありますが、意外と利用してみたら全然そんなことなく、気軽に自習とか本を読みに来てくれたらいいなと思います。

阿部：空きコマを友だちと話しながら過ごすのもいいけど、ちょっと本を読んでみたりとか、視聴覚コーナーでDVDを見て過ごしたりするのもいいんじゃないかなって思います。

田熊：図書館は、1人でいても違和感がないというか、自分1人の時間に入り込めるのが図書館だと思うので、お気に入りの場所を見つけて課題に取り組んだり、図書館が自分の居場所になればいいかなと思います。

河辺：お気に入りのスポットを是非図書館で作ってくれたらいいですね。

皆さん、今日は長い時間ありがとうございました。

『安倍晋三回顧録』

請求記号：312.1/A12

安倍 晋三 著、橋本 五郎 聞き手、尾山 宏 聞き手・構成、北村 滋 監修
(中央公論新社、2023.2)

功成し遂げた人々の回顧録は、えてして悪いことは隠して、良い面を強調する傾向が見られます。その点この回顧録は、読売新聞社の橋本五郎と尾山宏が、のべ36時間のインタビューを行い、それを通して厳しくツッコミを入れております。

日本人ならつい遠慮してしまうような質問すら、多々あることを強調しておきましょう。こうして本書からは、「メディアだけからは見えてこない、多くのトピックの裏側」を知ることができるのです。

真のリーダーが何を考えていたのか、そして妥協も含めどんな決断をしていたのか、海外の

リーダーとはどんな方針で臨んだのか。本書ほど、背後の思考・交渉プロセスが「そうだったのか」とわかる本は仲々あるものではありません。たとえば普段自衛隊に批判的な大阪のある女性議員が、アラブ圏の海域で自分たちの船(ピース・ボート)を守ってくれと、自衛隊の出動を頼んだりするくぐりなどは、思わずクスリとさせられます。

野党との交渉はさておき、驚いたのは財務省の暗躍です。財務省は一時、本気で安倍降ろしを画策していたようですが、思い切った解散総選挙による勝利で乗り切ったことが、赤裸々に書かれています。一部のメディアによるモリ・カケをネタにしたゆさぶりの実際は、メディアに流されることが多い人々には是非読んで欲しい部分と言えます。

主義主張はどうあれ、これからリーダーになろうとする人々には必読の書です。

(学長 谷岡 一郎)

『切手デザイナーの仕事 ~日本郵便 切手・葉書室より~』

請求記号：693.8/Ma11

間部 香代 著

(グラフィック社、2022.10)



在学生の皆さん、ふだん郷里の家族や友人との連絡は、スマホでLINEか電話でしょうか。Eメールもあまり使わないようですから、近頃は、手書きの手紙を封筒におさめ、切手を貼ってポストに投函した経験などほとんど無いかもかもしれません。

本書は、郵政民営化で生まれた日本郵便株式会社(JP)に勤める8人の切手デザイナーに作家がインタビューして構成したものです。希少な仕事に就いたいきさつや、これまで手がけた切手にまつわるエピソードは、8人8様。デザイナーの人柄もにじむ魅力的なポートレートや、数々

の美しい切手の写真に彩られた本です。

年齢、性別、専攻、前職も多様な8人が籍を置く「葉書・切手室」は、総勢40名。職場の上司と部下、先輩と後輩、同僚や他のセクションとの間で、また国内外のいろいろな関係者との交流や共創が日々展開されています。

8人の語りから、印象に残るひとことを抜き出してみました。「サムシング・ニュー」「消極的なデザイン」「みんなで決める」「親和性の高さ」「腐ったら負け」「売っていた経験」「これ、やります!」「磨ききる仕事」。それぞれの意味は、ぜひ本書を手にとりて確かめてみてください。人と人、人と仕事、人と組織のカンケイをめぐる機微や知恵が凝縮されています。

本書を読めば、懐かしい大切な人に葉書や手紙をしたためて、お気に入りの切手を貼ってポストに向かいたくなくなるかもしれません。

(図書館長、公共学部教授 初谷 勇)

『心淋し川(うらさびしがわ)』

請求記号：913.6/Sa19

西條 奈加 著
(集英社、2020.9)



本書は、第164回(2020年下半期)直木賞受賞作品である。思わず新刊じゃないじゃないかとの突っ込みが聞こえてきそうです。紹介する動機が、同じ著者による原作のコミック化からテレビ時代劇にな

った『善人長屋』(表は善人、裏は悪人という2つの稼業をもつ住人が活躍し、正反合という弁証法的な書名と内容…筆者)を読み、他の作品も読んでみようと思ったからです。

「ちゃきちゃき娘」や「おとぼけ同心」、そして定番の謎解きでもなく、「塵芥ちりあくたの中にもいずれの日にか蓮の花咲く」を夢見る市井の人びと、「明

日も希望はないけれど、なまじ掛けるな薄情け、誰の心にも淀みよどはある。それこそが人ってもんね」と語りかけます。

お江戸 根津権現坂上の千駄木の一角は心町うらまちといい、そこには「心淋し川うらさびしがわ」と呼ばれる小さく淀んだ川が流れていました。川のどん詰まりに古びた長屋が建ち並び、そこに暮らし、また人生という川の流れに行き詰まり、もがいている人びとがいます。登場人物それぞれのあらがうことができない生い立ちや、重たい過去を引きずりながらも懸命に生きている姿、生きる喜びと哀しみが織りなす物語、「心淋し川」・「閨ねやぼとけ仏」・「はじめましょ」・「冬虫夏草とうちゅうかそう」・「明けぬ里」・「灰の男」の全6話から本書は構成されています。そして最終話に打ちのめされ、「うらさびし」と読む本書の意図をも納得できるのです。

(経済学部准教授 田崎 公司)

『プーチン帝国滅亡』

請求記号：312.38/N43

中津 孝司 著
(ドニエプル出版、2023.4)



この1年余りウクライナ戦争(「ロシアとウクライナとの戦争」)がわが国においても注目を浴びている。この戦争によってエネルギーや穀物などの急激な物価高騰や地球環境問題の一層の深刻化が生じている。さらに、

これを契機として世界的には自由主義陣営と強権権威主義陣営との分断などが問題化してきている。

このような状況の下において、本著はまさに時宜を得た出版であり、その内容は、①プーチンの戦争、②史上最強の金融・経済制裁おびに脅え

るロシア経済社会、③ロシア経済の実相と暗黒の近未来図、④ウクライナ社会再建の課題、⑤「プーチンの戦争」がもたらす世界新秩序、⑥「プーチンの戦争」と世界経済大混乱、⑦「プーチンの戦争」で結束深める日本・米国・欧州、⑧プーチンが迫る新たな資源エネルギー政策、⑨秒読み段階に入ったプーチン帝国の崩壊である。

このように、本書はこの戦争の全体を俯瞰し、この戦争の本質とその影響、その結果としてのプーチン帝国の崩壊への予想を、丹念な文献研究等によって克明に描き出している。

激変する世界情勢の本質を知るためにも、是非ご一読をお薦めする。

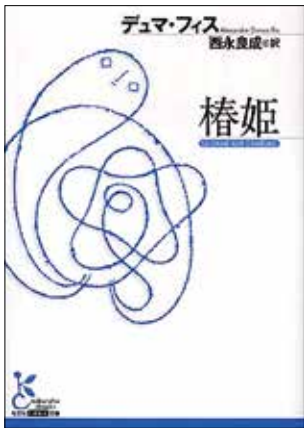
(総合経営学部特任教授 岩崎 勇)

純愛がテーマの最強3冊

図書館では、取書方針に基づき、図書館委員やスタッフによる毎週の選書のほか、利用者によるリクエストや学生選書ツアーなどを通じて、蔵書の更新、充実を図っています。そこで、GATEWAYの豊かな蔵書の中から、学生の皆さんに身に付けてもらいたい知識等が詰まった3冊を選者が独自のコンセプトで選び、「○○の(△△な)3冊」と名付けて紹介するコーナーをスタートさせます。

初回は、本誌の貴重書紹介でもお馴染みの森岡先生に選書していただきました。

学生時代に是非身につけてもらいたい文学教養という題目で、テーマを純愛にした場合、次の三冊を選んだ。



『椿姫』
デュマ・フィス著、西永 良成訳
請求番号 953/D96

だが、次第に引き込まれ、通学中、読みふけるようになった。主人公の気持ちもわかるし、そのお父さんの気持ちもわかる、読み進めていくうちに涙がぼろぼろ



『風立ちぬ・美しい村』
堀 辰雄著
請求番号 913.6/H87

デュマ・フィス『椿姫』。ある女子学生が講義の課題図書の中からこれを選び、次のようなことを書いた。課題で何かを読まなくてはならないので、本屋でたまたまこれを買って、通学の電車の中で読み始めた。最初は単位を取るために仕方なしに読み始めたが、次第に引き込まれ、通学中、読みふけるようになった。主人公の気持ちもわかるし、そのお父さんの気持ちもわかる、読み進めていくうちに涙がぼろぼろ流れてきた、と。原題は『La Dame aux camélias』。椿を持った婦人くらの意味。これを椿姫と訳した先人のセンスには感心する。

堀辰雄『風立ちぬ』。ジブリの映画の「風立ちぬ」ではない。実はジブリの映画は、こ

の本と、文庫本であれば通常『風立ちぬ』と一緒に入っている『美しい村』の内容を、零戦(もしくはゼロ戦)の主任設計技師・堀越二郎の伝記と重ね合わせたものである。元来、堀越二郎と堀辰雄の小説には何の関係もないのだが、堀越二郎の伝記を土台にして、それに堀辰雄の小説で肉付けした感じ。『美しい村』は軽井沢における主人公と節子との出会いを描き、『風立ちぬ』は死別を描いている。この両方を読み、堀辰雄が紡ぐ美しい日本語を味わってほしい。

シェイクスピア『ロミオとジュリエット』。言わずと知れた恋愛文学の王道。これは小説と違い、戯曲、要するに芝居の台本なので、背景の描写などはなく、自分で補わなくてはならないところがある。その意味では最初に映画を見る



『ロミオとジュリエット』
シェイクスピア著、中野 好夫訳
請求番号 932/Sh12

といいかもしれない。ロミオとジュリエットの映画化は何度かなされているが、一番いいのは、フランコ・ゼッフィレッリ監督の1968年版(オリビア・ハッセー、レナード・ホワイティング主演)だろう。なんといってもニーノ・ロータの音楽が美しい。この映画は原作に忠実で、シェイクスピアの台詞(せりふ)をそのまま語るところもある。しかし省略した場面もあるので、比較してみるのも面白い。ビデオ店に行けば必ずある。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

LSS活動報告 (2023年1～5月)

LSS(図書館学生スタッフ)は、学生目線で「利用したい図書館づくり」を目指して活動しています。図書館主催イベントの運営サポートとともに、自主企画の特設展示や古本市など、学生にいかにも本を手にとってもらえるかを考え取り組んでいます。

◇企画展示「選挙・政治について知ろう 3」 1/11(水)～5/10(水)

2023年春の大阪府知事選など統一地方選挙を機に選挙・政治に関心を持ってもらおうと、3回目の開催でした。1回目は2021年秋の衆議院選挙、2回目は2022年夏の参議院選挙の時期に実施しました。企画した楠見 啓人さん(経済学科3年)は、「商大生が選挙に行くきっかけになればよいと思い、この企画を始めました。これを見て一人でも多くの商大生が政治に関心を持ってくれたらと思います」と述べました。



◇企画展示「有名選手からサッカーを深く学ぼう」 1/27(金)～4/25(火)



昨年のワールドカップでは、日本代表が格上の強豪国スペイン、ドイツを打ち倒し、日本のみならず世界中に多くの感動をもたらしました。そして、にわかファンも含めサッカーファンが急増。そんなサッカーファンに、継続して興味をもってもらうと企画した小林 爽さん(公共学科3年)は、「自分自身、4歳からサッカーを始め、高校まで続けました。みんなにもサッカーの面白さを知ってもらいたいと思いました」と話しました。

◇大阪商業大学附属幼稚園での読みきかせ 4/26(水)

幼稚園児や小学生等に本の良さを知ってもらい、本を好きになってもらう試みとしてLSSによる初めての読みきかせを企画しました。



昨年の夏から、府立中之島図書館での読みきかせの見学や、東大阪市での研修など準備を進め、4月26日、大阪商業大学附属幼稚園での実施となりました。

年長クラスの園児たちは、お話が始まると真剣に聞き入り、時折笑い声も起こりました。読み終わった後、内容についての質問には、大きな声でたくさんの答えが返ってきました。

LSSリーダーの吉留八雲さん(商学科3年)は、「園児たちが喜んでくれて、自分も楽しく読むことができました」、また、読みきかせ企画リーダーの中西虎太郎さん(経営学科4年)は、「教職課程を履修しているのです、よい経験になりました」と話しました。

◇古本市

授業期間中の月1～2回、GATEWAY1階にて古本市を開催しています。図書館で不用となった図書・雑誌を有効活用するため、学生・教職員と地域の方にも無料でお持ち帰りいただいています(1人30冊まで)。



① GATEWAY Info

■ GATEWAY6階テラスの開放

6階テラスを開放しています。生駒山を望むオープンエアの開放的なスペースです。ぜひご利用ください。

開放時間：9：00～17：50(月～金)、9：00～16：50(土)

※日・祝と雨天時はご利用いただけません。



■ 本学教員著書の寄贈

〔大阪商業大学2022年度出版助成を受けた本学教員著書の寄贈〕

・ 南方 建明 (総合経営学部 商学科 教授)

『現代小売業の潮流－統計データによる検証』／晃洋書房／2023年1月／請求記号：673.7/Mi36

〔図書館委員会で受け入れを承認された本学教員著書の寄贈〕

・ 中津 孝司 (総合経営学部 経営学科 教授)

『プーチン帝国滅亡』／ドニエプル出版／2023年4月／請求記号：312.38/N43

・ 岩崎 勇 (総合経営学部 経営学科 特任教授)

『人生の法則』幻冬舎メディアコンサルティング／2023年2月／請求記号：159/I96

※配架場所は、2階「本学教員著書」コーナー(書棚210、B面)です。

■ 図書館関連委員会開催状況 (2022年12月～2023年4月)

2022年度第3回図書館委員会

2022年12月12日(月)

議題：〔審議〕2022年度図書資料の除籍について

〔報告〕①2022年度特別研究図書選定結果について：11名27件を採択。

②2022年度図書館事業中間報告について

- ・ 選書ツールを追加して選書、蔵書確認の上、169冊を購入。
- ・ 次年度の外国雑誌購入タイトルの見直し及び対策指針検討。
- ・ 「授業関連図書コーナー」を「シラバス参考文献コーナー」へ整理・改称。
- ・ レファレンスサービスのガイドラインを整備し、利用者へレファレンスサービスを案内。

2022年度第1回学術情報リポジトリ運営委員会

2023年3月17日(金)

議題：〔報告〕学術情報リポジトリの現状について：コンテンツの登録と閲覧・ダウンロード状況、利用者向けの注意事項の告知について報告。

〔審議〕学術リポジトリの充実について：①登録対象の拡充、②登録手続き、様式類の整備、

③リポジトリの広報、管理運営に係る検討の方向性と対応策を了承。

2023年度第1回図書館委員会

2023年4月17日(月)

議題：〔審議〕①2023年度選書委員について：承認。

②寄贈図書の受け入れについて：58冊の受け入れを承認。

〔報告〕①2022年度図書館事業報告

受入冊数：6,045冊／蔵書冊数：549,610冊／除籍冊数：2,403冊

②2022年度図書館利用状況報告

2022年度は活動制限レベル「0」となり、対面での授業再開や一般利用登録受付再開等により、入館者数が増加。

③2023年度の主な事業について：2023年度図書館事業計画に基づき主な事業を説明。

【編集発行】大阪商業大学図書館

大阪商業大学図書館報「GATEWAY」第57号 2023(令和5)年6月30日発行

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

TEL：06-6781-5280 URL：https://ouc.daishodai.ac.jp/lib/

E-mail：lib@oucow.daishodai.ac.jp Twitter：@OUC_Lib

QRコードを読み取ると、
図書館ホームページへ
アクセスできます。

